

行動化につながる指導内容・方法等の工夫・改善 ～「感じ、考え、行動する」活動を意識的に設定した学習の展開をめざして～

1 学校マネジメント研修

学校マネジメント研修

生徒の実態を見つめ、
長期的な指導のビジョンやイメージを共有する



生徒の実態を見つめ、どのような生徒をめざし、そのめざす生徒像に向けてどのような指導をしていくべきか、具体的なイメージやビジョンを持って取り組んでいくことが必要である。

学年団に分かれて、中学校卒業までに身に付けさせたい力を考え、教育の目標を立てていくのである。まず学年生徒の現在の様子を分析し、何が課題であるかを検討した。その上でいつまでにどのような力を付けさせたいか中期の目標を立て、そのための手だてを考えていった。その目標や考えは模造紙にまとめて校長室に1年間掲示し、機会を捉えて評価しており、SRPDCAの取組の基本としている。新年度に学年が変わったときには、前年度の指導を振り返り、再検討して修正を加えていった。学年団で共通理解が図られ、指導の連続性が生まれた。



学年生徒の課題を分類・整理

卒業までのラフシナリオを作成して校長室に掲示



2 SRPDCAサイクルを意識した取組

鳴門教育大学の葛上先生より、「SRPDCAサイクルを意識した人権教育」について指導いただき、様々な活動の取組について確認を行っている。

「S スタンディング」について私たちは、「拠って経つところ」と理解して取り組んできた。様々な課題への取組を始める前に、教師自身がその問題と深く関わり、生徒が「自分の問題として」捉えられるように準備していくことである。この「S」を充実させることによって行動化につながる学習展開をめざしていくことを重視した。

「S」を充実させる取組として、様々な人権問題にかかわる研修を行い、地域や関係機関の力を借りて、教師自身が「自分の課題」として捉えることを重視した。識字学級の方との交流、徳島空襲を体験したゲストティーチャーをお招きするなど、生徒が自分の問題として取り組む意識を高めるための活動を仕組んだが、事前の研修や打ち合わせ等で教師自身が学ぶことが大きな力となった。



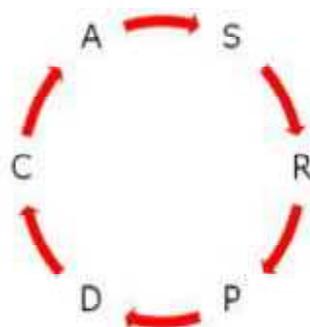
• S…スタンディング

教師自身の主題についての揺るぎない考えや信念を立ち位置「S」として強固なものにすること

• R…リサーチ

生徒の意識・考え・行動の様子を丁寧に見取ること

SRPDCAサイクルを意識した取組 人権学習につながり・深まりが生まれた。



S (課題と自分との関係)

R (リサーチ)

P (プラン)

D (やってみよう)

C (振り返ってみよう)

A (次に生かそう)

3 研究授業・授業研究会

目標を達成するためのより良い授業を求めて研究授業を行い、互いが学び合う場とした。授業では体験的参加型学習を取り入れ、生徒が積極的に学習に取り組む学習形態の工夫を心がけた。

参観者は『授業評価シート』をもとに授業を検討し、KJ法で、授業の成果や課題をとらえたり、その後の授業研究会で意見を出し合った。『授業評価シート』は、「生徒理解」「教材解釈」「授業構成」「授業実践」の4つの視点について合わせて19の項目から成っている。授業研究会での検討内容は参加者にもこれからの自分の授業で考えるべき観点となり、校内全体の授業改善のために積極的な意見の交換がなされ、毎回充実した話し合いとなった。



校内研究授業

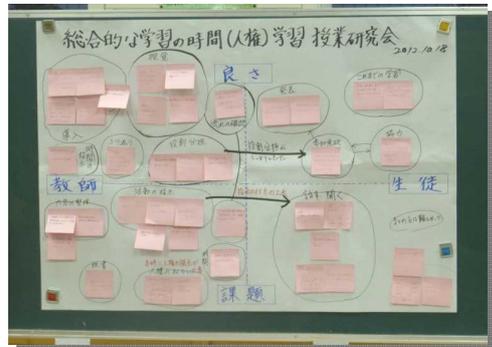
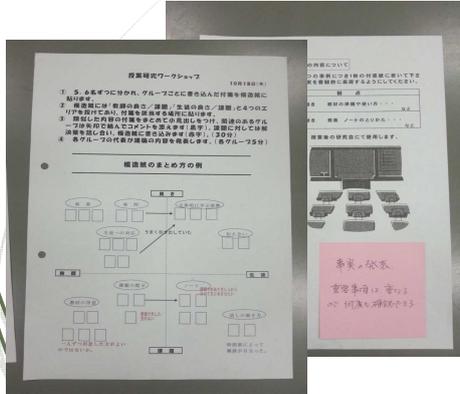


授業研究会

番号	観 点	評 価	備 考
1	一人一人の学習態度や学習状況を把握している。	1 (2.5)	
2	授業の進め方がよくて授業内容に、興味のある点がある。	1 (2.5)	
3	一人一人の学習態度や学習状況を把握している。	2 (2.5)	
4	学習態度の把握を重視し、細かく行っている。	1 (2.5)	
5	授業の進め方がよくて授業内容に、興味のある点がある。	1 (2.5)	
6	授業の進め方がよくて授業内容に、興味のある点がある。	1 (2.5)	
7	教材研究がしっかり行われ、生徒に活用できる内容を提示している。	1 (2.5)	
8	学習態度を達成するために教具を工夫し、活用している。	1 (2.5)	
9	教材を上手に、生徒が興味を持てるように進められている。	1 (2.5)	
10	授業の進め方がよくて授業内容に、興味のある点がある。	1 (2.5)	
11	教材研究がしっかり行われ、生徒に活用できる内容を提示している。	1 (2.5)	
12	学習態度を達成するために教具を工夫し、活用している。	1 (2.5)	
13	教材を上手に、生徒が興味を持てるように進められている。	1 (2.5)	
14	一人一人の学習態度や学習状況を把握している。	1 (2.5)	
15	授業の進め方がよくて授業内容に、興味のある点がある。	1 (2.5)	
16	教材研究がしっかり行われ、生徒に活用できる内容を提示している。	1 (2.5)	
17	学習態度を達成するために教具を工夫し、活用している。	1 (2.5)	
18	教材を上手に、生徒が興味を持てるように進められている。	1 (2.5)	
19	一人一人の学習態度や学習状況を把握している。	1 (2.5)	

授業評価シート

参観者が気付きを出し合い、分類・整理して、授業の課題を明らかにする



4 生き方のスキルを学ぶ「絆学習」の導入

様々な行事をきっかけに、共に活動する場を設定し、自他のよさに気付いたり、仲間と協同することのすばらしさを感じさせたいと考えて取組を進めていた教職員から、友達との関わりや仲間づくりに課題があるとの声が上がリ、その打開策として取り組んだのが Lions-Quest『思春期のライフスキル教育』プログラムである。平成24年8月19日、20日の2日間、講師を迎えて研修を受けた際には、「2日間があつと言う間にすぎた。」「充実した研修だった。」という声職員から上がり、平成24年9月以降「絆学習」と名付け、道徳・特別活動の時間に取組をスタートさせることとした。

(1) Lions-Quest『思春期のライフスキル教育』プログラムとは

文部科学省「総合的な学習の時間」の応援団のページに

- ・ 小学校高学年～中学校3年生向けの体系的かつ包括的なライフスキル教育プログラムであり、青少年が自尊心の高い、責任感のある、自分も他人も大切に、健康的な人物に成長していく過程に必要な「生きる力」をカリキュラム化している。
- ・ 学習したスキルを実践するボランティア体験学習を含む、生徒参加型プログラム

と記載されている。このプログラムは青少年の健やかな成長を支援し、社会の一員として必要なライフスキルを身に付けさせることをめざしているものである。スキル学習を通して、問題解決方法や健全な意志決定、目標達成のための段階設定などの考え方や、人間関係形成、コミュニケーション、問題への対処法などの社会的スキルを身に付けさせる活動を行う。これらの学習によって、自己肯定感を高めたり、他人を尊重する心を育てたいと考えて取り組んだ。

《 このプログラムで学習するスキル 》

- ・ 自己規律・責任者・自信の形成
- ・ 感情や態度の上手な表現の仕方
- ・ 問題解決や健康的な意志決定
- ・ 批判的思考力
- ・ 他の人のためにする活動の実施
- ・ 他の人との効果的なコミュニケーションと協力
- ・ 家族や友人とのよい関係の強化
- ・ 仲間からのよくない誘いや薬物の拒絶
- ・ 目標設定と計画的な実施



平成24年度の研修



平成25年度の研修

平成24年度に教職員16名が、平成25年度には教員4名がそれぞれ2日間の研修を受けた。それぞれで協力し役割分担しながら、与えられたテーマについて学びを深めて表現していく技法は、まさに現在のわが国の課題とされている「確かな学力」の向上にもつながるものだと考える。学習者として実際に授業を受けたり、授業者として模擬授業を行ったりすることで学習の楽しさを感じることができ、実際の授業のイメージを持つことができた。

(2) 「絆学習」と名付けての取組

参加者が互いの意見を尊重しながら話し合う活動は、本校の生徒たちの成長に合った学習であることを感じ、「絆学習」と名付けて全校での取組をスタートさせた。

平成24年度に各学年がそれぞれに取り組んだ課題は次のようなものである。実際に取り組んでみて、生徒が活発に活動し効果が感じられたものには◎、スムーズに取り組めたものには○、課題があるものには△を付け、継続的な取組につながるようにした。

学年	プログラム名	評価
一 年	好ましい価値観	○
	感情について考える	○
	言動が他者に与える影響	◎
	谷底から頂上へ	◎
	怒りを鎮めて冷静に考える（1）	○
二 年	自分を知る 仲間を知る	◎
	本当の自信をつける方法	△
	目標設定	◎
	谷底から頂上へ	◎
	レモネード ラーニング	◎
	怒りを鎮めて冷静に考える（1）（2）	◎
三 年	目標設定	◎
	谷底から頂上へ	○
	レモネード ラーニング	△

(3) 効果・生徒の変化等

- ・1年生の生活記録に次のような記述が見られた。

○話し合ったり毎回グループが違ったりするところが楽しく感じてきた。
○絆学習を通じて「怒り」を鎮める方法がわかったので実践してみたい。
○友達の意外な面を知ったり、自分に関しても知らない部分があったことに驚いた。



班での話し合い

- ・絆学習をするようになってから、グループでの話し合い活動がスムーズに進むようになった。よく協力できるようになった。
- ・絆学習中においては、自分の意見を出せる生徒が増えてきたように思う。
- ・班活動、発表の仕方、役割分担などある程度訓練を重ねることでスムーズに活動ができるようになった。話し合いの仕方も工夫できるようになった。
- ・男女関係なく、誰とでも活発に話し合ったり、まとめたことを模造紙に記入していくことができた。



班の考えを発表

- ・日常生活の中でも学習で学んだ言葉を使って行動につなげようと「谷底の考え方になんりょう（なっている）ぞ。」などと声をかける場面もあった。

学校生活に多くの課題を抱え、授業に入れなかったり、仲間と共に活動できなかつたりする生徒も、この「絆学習」の時間に限っては、不思議と学級の友達と一緒に活動ができた。安心して自分の意見が出せる場と時間がつくられていたからだと考えられる。それだけでなく、1年生・2年生ともに総合的な学習で研究授業を行った際、グループでの話し合いが非常にスムーズで、どの班も活発に意見を出し合ったりまとめたりすることができた。男女関係なく話し合いがスムーズになり、生徒会活動などにも意欲的に取り組む姿がみられ、効果を感じている。



意見をまとめる



班で意見交換



課題の提示

5 ホワイトボード・ミーティングの導入

「ホワイトボード・ミーティング」の導入

聴き合う、学び合う、つながり合う信頼関係を育む



本校では、平成24年度末からホワイトボード・ミーティングを授業の中に取り入れている。ちょんせいこさん（人まちファシリテーション工房・代表）の信頼ベースの「学級ファシリテーション講座」で研修を受けた教職員がリードし、生徒の話し合いのスキルを高め、教室の中に、聴き合う、学び合う、つながり合う信頼関係を育むために、様々な授業で活用している。

ホワイトボード・ミーティングのポイント

- ・各班のファシリテーター（進行役）は、オープン・クエスチョンで班全員から意見を聞きながら、ホワイトボードに書いていく。
- ・ファシリテーターも班員も、途中で否定や意見を言ったりせず否定的な考え方も受け入れ、好意的な関心の態度で聴く。
- ・意見を出す（発散）→話し合って選択したりまとめたりする（収束）→具体的な活動計画を立てる（活用）のプロセスを作る。



ホワイトボードシートも利用

【生徒が参考に使うカード】

サイドワーカー5の心得

ぼくたちは1つのチームだからみんなで協力するって大事なことです。ファシリテーターだけでなくサイドワーカーにも技があります。サイドワーク名人になろう！

その1 良き参加者になって、聴き合います
話し合いの主役はサイドワーカー。良き参加者として、お互いに意見を聴き合います。

その2 「分からない」「知らない」ことも大切な意見です
どんな意見もファシリテーターが受け止めて書いてくれます。「分からない」「知らない」ことも大切な情報だから、しっかりと伝えましょう。

その3 話しすぎない、聴きすぎない
自分ばかり話しすぎない。聴きすぎない。たくさん話したいときも、みんなで公平に参加できるように上手に聴き合います。サイドワーカー同士も話を振ります。

その4 メモをとらない、手ぶらです
話に集中するために、手ぶらで参加します。例えばメモをとるために下に向くと、好意的な関心の態度じゃなくなり、他の人が発言しにくくなります。顔を上げて参加します。

その5 ファシリテーターを助けます。
ファシリテーターが困っていたら助けます。代わりにオープン・クエスチョンで質問する、発言のない子に「どうですか?」と話をふるなどします。

質問の技カード

オープン・クエスチョン
(思考を広げ深める)の例
～阿波井バージョン～

- 1 ～って言うたら？
- 2 どんな感じえ？
- 3 もうちょっとくわしーに教えてくれるん？
- 4 たとえばどんなん？
- 5 具体的にどんな感じえ？
- 6 どんなイメージえ？
- 7 エピソードを教えてくれるで？
- 8 ほかにはあるで？

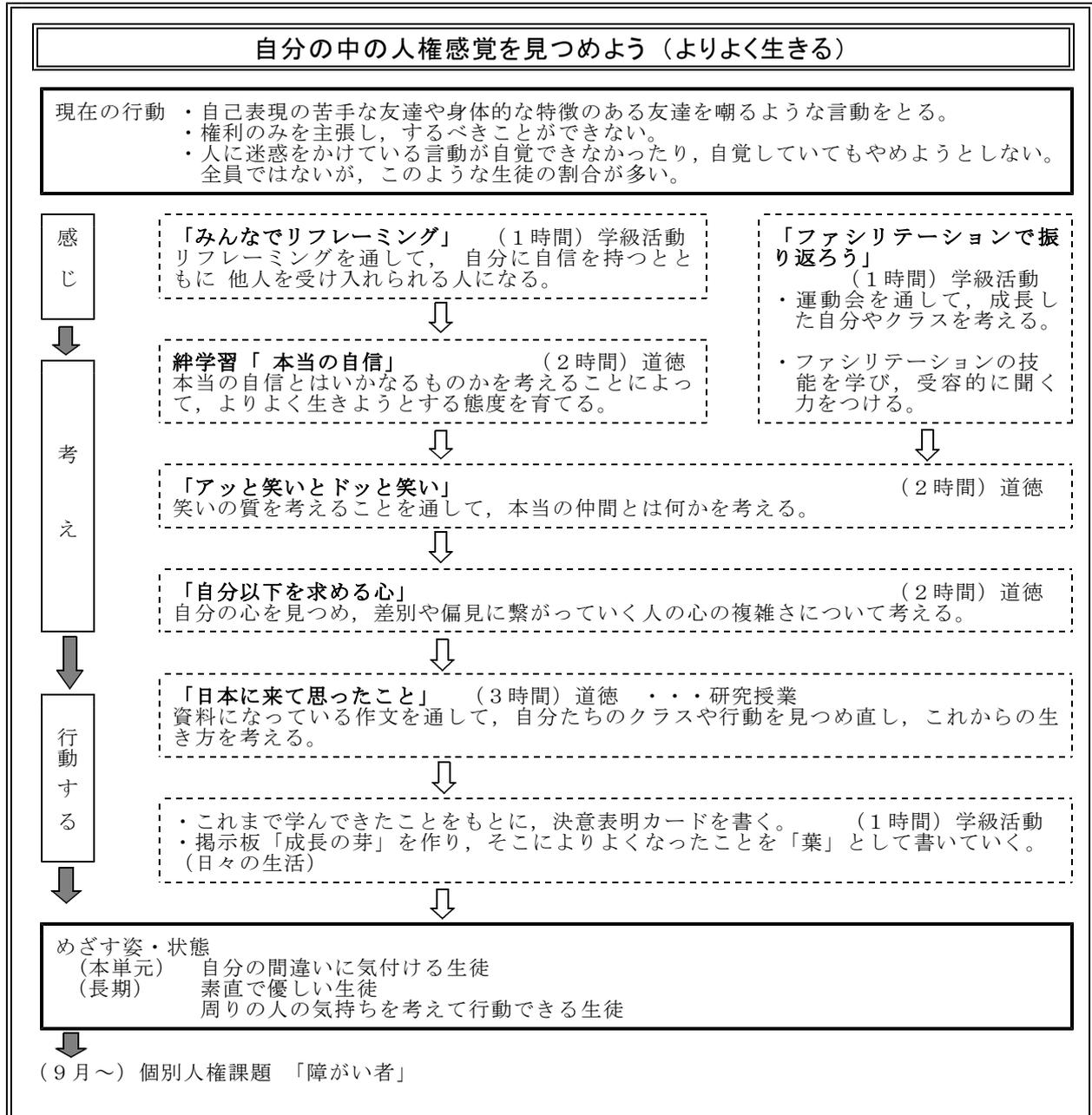
道徳や人権学習ではなかなか発言できない生徒がどの学級にもいるが、ホワイトボード・ミーティングを導入したことによって、自分の意見が大切にされ、認められたと実感でき、発言が苦手な生徒も安心して発言できるようになった。また、様々な考え方を受容的に聞く姿勢も身に付いてきた。ホワイトボードを使っての授業では、班の意見交換が活発になり、話し合ったことが記録に残っているので、生徒の考えを捉えたり評価したりすることにも活用できた。意見を可視化するので、班で話し合われた内容が学級全体で共有できるという効果もある。ただ、子ども同士で話が進んでいくので、深まりという点では課題が残る。どんな場面でホワイトボード・ミーティングを取り入れることが効果的なのか、その点については、まだまだ研究が必要である。

6 人権学習の単元を意識した実践を展開する

「感じ・考え・行動する」生徒を育てるために、人権学習の流れの中に「感じる」「考える」「行動する」をはっきりと意識した活動を取り入れることによって、指導計画の充実を図ることとし、「人権学習の単元」と名付けて取り組んできた。

生徒が「感じ、考え、行動する」ことをめざして課題を取り上げた。例えば1年生では次のような構想から出発して指導計画を立てた。

○1年生 7月までの単元計画案



このような単元を計画して生徒の意識の流れを大切にすることによって、教材や資料をもとにした学習を自分の生活と結び、考えたことを行動に移す生徒を育てることに取り組んできた。

夏休みまでの生徒の状況を見てみると、1年生では、「友達を大切にすることが自分を大切にすることにつながる」ことを考え話し合う学習を通して、学習態度や友達に対する態度に変化が見られるようになった。2年生が夏休みに「ガマの中で」の人権劇撮影に取り組ん

たり、3年生が希望者を募って識字学級に参加したりする行動が見られた。

このような学習に取り組む中で、「『感じる』『考える』は何度も往復する」ことや、「よりよく行動するためには、深い話し合いが求められる」ことが明らかになった。1時間の授業や1つの資料・教材を取り上げた学習だけでなく、「学校マネジメント」を受けた長いスパン、1年間の指導計画、単元の指導計画を意識した取組により、目標に向けた方向性ののっぴりした学習や活動の展開に繋がったと考えている。

「感じ、考え、行動する」活動を意識的に設定した学習の展開

生徒の意識のつながりを大切にした人権学習の展開をめざす

鳴門中学校人権学習の単元として

- ▶ 課題が認識され、解決に向かうまでのひとまとまりの学習
- ▶ その学習の間、生徒は課題の探求や解決に一貫して向かう
- ▶ 「感じ、考え、行動する」活動を位置付ける
- ▶ 生徒の考えが自然に継続し、発展するような流れを作る
- ▶ 適切な資料・つながりのある活動を位置付ける

7 行動化につながる話し合いを求める

行動する生徒を育てるためには、「考える」活動や考えたことをもとにした深い話し合いが大きな鍵になることを実践の中で感じてきた。形だけの結論を述べ合って、深く考えたり行動化に繋がらないような人権学習にしないために、どのような問題をどのように取り上げて話し合いを組み立てていくのかは現在の大きな課題である。例えば生徒は「いじめはよくない。」と発言する。それは誰も知っている。それなのにいじめは発生する。なくせない。「なぜみんながよくないと思っていることがなくなるのか。」をしっかりと考え、本当の行動化に繋がる話し合いを求めたい。「いじめを許さない。」という結論の言葉が同じであっても、深く考え意見を交わすことで、将来にわたって生徒の行動を支えるような学習にしていきたい。

行動化につながる話し合いを意識した取組の展開

教師が「行動につながる思考、将来にわたって力となる思考をを求める意識」をもつことができた。



8 おわりに

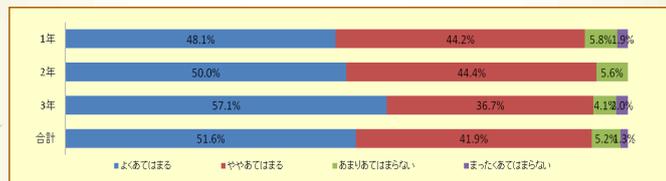
平成24・25年度の2年間にわたり、文部科学省指定研究校として「感じ、考え、行動する」活動を意識的に設定した学習の展開をめざして、行動化につながる指導内容・方法等の工夫・改善に取り組んできた。

最初の頃は、特にグループで話し合ったことを発表する授業が多かったが、それにとどまらず出された意見を組み合わせ、さらに深く考え合う学習をめざしてきた。資料や体験活動等を組み合わせ意識を深める学習で考えたことをしっかり話し合わせ、行動につながる思考、将来にわたって力となる思考が生まれる授業にしたいと考えている。今後も生徒の気持ちを揺さぶる指導をめざし行動化につながる学習を展開したい。

【アンケート結果より】

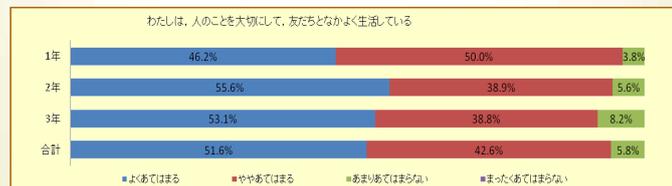
「感じ、考え、行動する」生徒が増えてきた

学校へ行くのが楽しい 93.5%



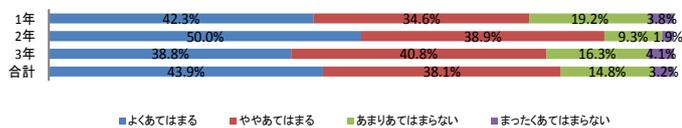
人のことを大切に

友達となかよく生活している 94.2%



自分のいいところを認め、前向きな気持で生活する生徒が増えた。

わたしは、自分のいいところをさらにのびたいと思って生活している



「感じ、考え、行動する」ことを生徒も意識して生活している。

わたしは、鳴門中スローガン「感じ、考え、行動する」を意識して生活している

